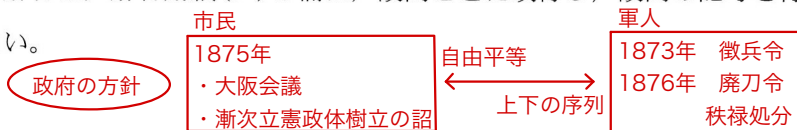


第 4 問 設問A→赤色
設問B→水色

次の(1)・(2)の文章は、軍人が実践すべき道徳を論じた明治時代の史料から、一部を抜き出して現代語訳したものである。これを読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

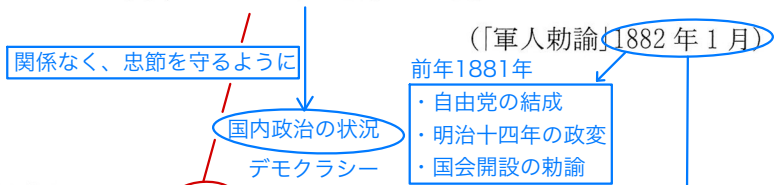


(1) 維新以後の世の風潮の一つに「民権家風」があるが、軍人はこれに染まることを避けなくては行けない。軍人は大元帥である天皇を戴き、あくまでも上下の序列を重んじて、命令に服従すべきである。いま政府はかつての幕府に見られた専権 圧制の体制を脱し、人民の自治・自由の精神を鼓舞しようとしており、一般人民がそれに呼応するのは当然であるが、軍人は別であるべきだ。

(西周「兵家徳行」第4回、1878年5月、陸軍将校に対する講演の記録)



(2) 軍人は忠節を尽くすことを本分とすべきである。兵力の消長はそのまま国運の盛衰となることをわきまえ、世論に惑わず、政治に関わらず、ひたすら忠節を守れ。それを守れず汚名を受けることのないようにせよ。



設 問

A (1)の主張の背景にある、当時の政府の方針と社会の情勢について、3行以内で述べなさい。
条件 主題

B (2)のような規律を掲げた政府の意図はどのようなものだったか。当時の国内政治の状況に即しながら、3行以内で述べなさい。
主題 条件